

第3回水稻病害虫発生予察結果(伊豆市内)



4月下旬～5月上旬田植えの早生品種(コシヒカリ等)

【稲の生育状況と栽培管理について】

コシヒカリ等の早生品種では調査地区により、幼穂の長さに違いが出ております。中伊豆地区は平均で3cm(出穂まで約12日～18日)、天城・修善寺(大平、北又)地区では0.9cm(出穂まで約20日～18日)となっております。今後の天候、気温によっては早まることや遅くなることがありますのでご注意ください。穂肥を施用される方は自分の田んぼの幼穂の長さが0.5～1.5cmを目安に施用してください。

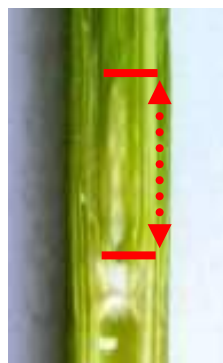
なお、幼穂の成長には水が必要となります、水が不足すると幼穂の生育に遅れや稔実が悪くなる可能性が高まります。中干しの最中で幼穂の形成が確認できた方は、中干しを中断し間断灌水を行うようにしてください。詳しい「穂肥のタイミング」「幼穂の確認方法」「間断灌水の方法」については下記をご参照ください。

【幼穂の確認方法】

1. 株の中で一番長い茎を株元から抜く。
2. カッターで茎を上から真半分に切る。



3. 幼穂(白く伸びた穂のもとになる部分)の長さを図る。)

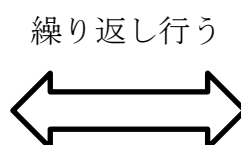


幼穂の長さ	出穂前日数
0.1cm	25日
0.5cm	20日
1.5cm	18日
5.0cm	12日

【間断灌水の方法】



水を張った状態



水が減り表面が見える状態

【穂肥について】

元肥一発肥料を使用していない方は、穂肥の施用が必要となります。穂肥のタイミングは幼穂が0.5cmから1.5cm程度になったら施用します。穂肥は1回目と2回目に分けて行いますが、1回目の穂肥を施用した1週間後に葉が濃い緑色をしている場合は、2回目の穂肥を施用する必要はありません。

穂肥の施用のタイミングと、施用量は下表をご確認ください。

《穂肥（マップ456）施用基準》



幼穂の長さ	出穂前日数	回数	施用量
0.5cm	20日前	1回目	20kg／10a
1.5cm	18日前		
5.0cm	12日前	2回目	10kg／10a

5月中旬～6月上旬田植えの中晩生品種(きぬむすめ・あいちのかおりSBL)

【稲の生育状況と栽培管理について】

現在の分けつ数は20本を上回っています。分けつ本数が20本を確保できていれば中干しの適期となります。中干しの期間は田んぼに軽くヒビが入る程度まで行ってください。

中干しの期間については「第2回水稻病虫害発生予察結果」をご参照ください。田んぼに雑草が多い方につきましては生育遅れの原因やカメムシを誘引する原因となりますので、中干しの際に使う除草剤「バサグラン粒剤」などを使用し防除を行ってください。使用の際は、田んぼを落水状態(足跡に水が少し残る程度)にして散布を行ってください。また、散布後2～3日に田んぼに水を入れたり雨が降ってしまうと効果が低下しますので、**散布後3日間は雨の降らない日を狙って**散布してください。

薬剤名	使用時期	使用方法	使用量	使用回数
バサグラン粒剤 3kg	移植後15日～収穫45日前まで	落水散布またはごく浅く湛水して散布	3～4kg／10a	1回

前回の予察結果・栽培管理は
こちらからご覧になれます！
次回予察予定 7月16日



作成日：令和8年7月2日
JAふじ伊豆修善寺営農経済センター
担当：竹村
電話：0558-72-4461